

第5節 学習関連行動

1. 学業的能力の裾野

【学業達成や理解度に関わるけれども、直接的には学校の学習に関わらない諸行動を「学業的能力の裾野」としてとらえた。学校での学業達成や授業の理解は、そうした日常的な知的行動や情報の摂取、知的関心に基礎づけられてはじめて高められるものと考えられることができる。

自然や動物・植物の本を読む(14%)、日記をつける(15%)、美術館や博物館に行く(16%)、地域の図書館で本を借りたり読んだりする(23%)。】(図1-12、図1-13)

Q7

あなたは、ふだん(学校の授業や宿題以外で)次のことをどのくらいしますか。①から⑮のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

高校生の学習行動を把握する作業の最後として、学習に関連したさまざまな行動の状況を見ることにしよう。いうまでもなく、高校生の学業達成や学習内容の理解度は、授業を聞いたり、学校の宿題や予習、復習をしたり、あるいは受験勉強をしたりといった、直接学校の学習に関わる行動だけに規定されているわけではない。そこには、そうした行動の背景にあって学業達成や理解度を左右するさまざまな要因が存在する。ここでは学業達成や理解度に関わるけれども、直接的には学校の学習に関わらない諸行動を「学業的能力の裾野」としてとらえ、その状況を見ることにする。学校での学業達成や授業の理解は、そうした日常的な知的行動や情報の摂取、知的関心に基礎づけられてはじめて高められるものと考えられることができる。

具体的には、学業的能力の裾野を構成する

行動として今回は図1-12にあげた項目を用い、それぞれについて学校の授業や宿題以外での行動の頻度を尋ねた。

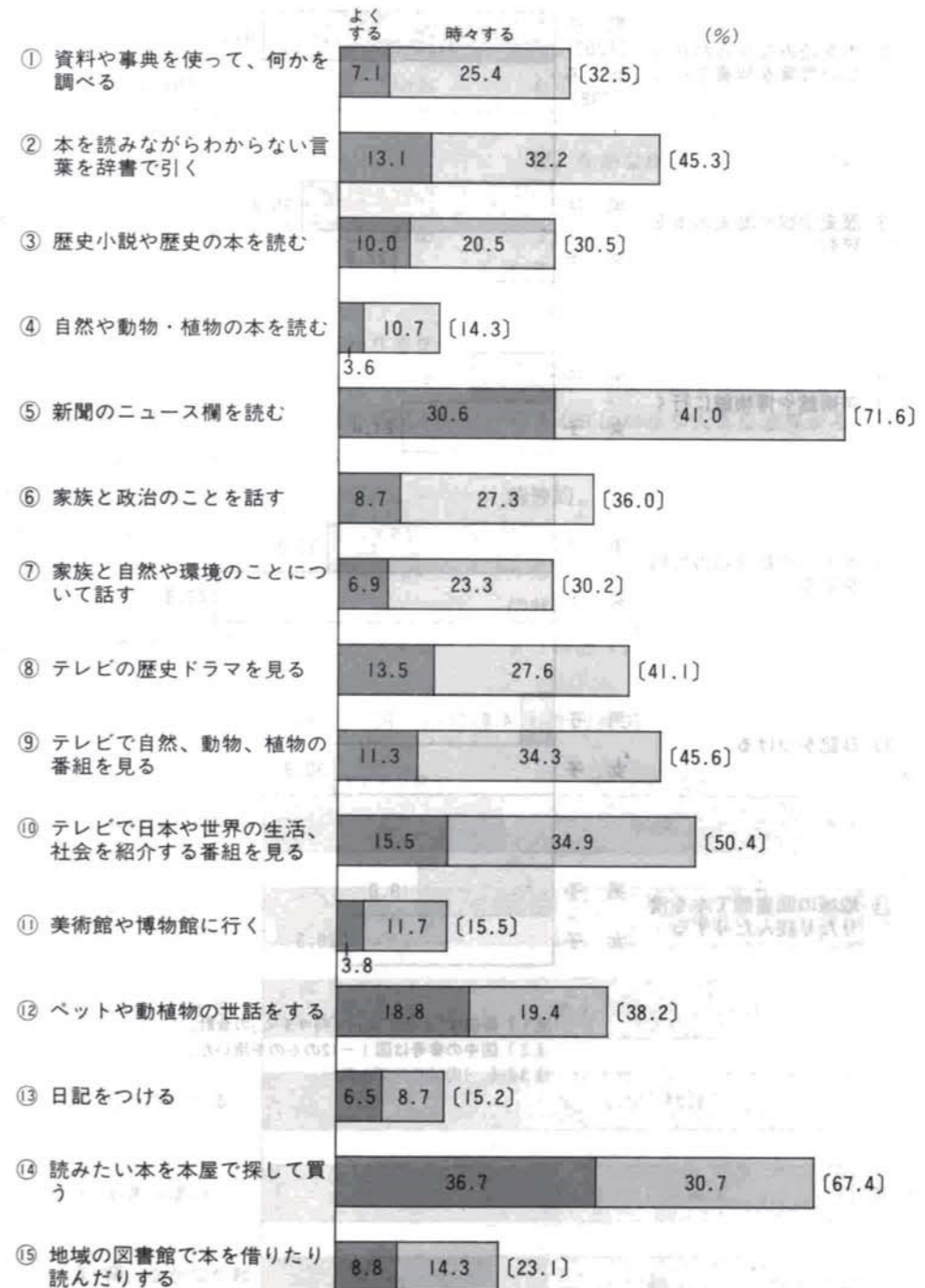
高校生の半数程度以上が「よくする」「時々する」と答えたのは、以下の項目である。

- ⑤新聞のニュース欄を読む(72%)
- ⑭読みたい本を本屋で探して買う(67%)
- ⑩テレビで日本や世界の生活、社会を紹介する番組を見る(50%)
- ⑨テレビで自然、動物、植物の番組を見る(46%)
- ②本を読みながらわからない言葉を辞書で引く(45%)
- ④自然や動物・植物の本を読む(14%)
- ⑬日記をつける(15%)
- ⑪美術館や博物館に行く(16%)
- ⑮地域の図書館で本を借りたり読んだりする(23%)

こうした学業的能力の裾野を構成する行動については、受験勉強などの目的を絞った学習にとっては迂遠でありむしろ非効率的であると考えられがちだが、その重要性をよく認識した上で、少なくとも低学年にあっては家庭と協力した指導がなされることが望ましいと思われる。生涯学習時代の到来を考慮すれば、学校での授業や受験に焦点づけられた学習以上に、図にあげた諸学習行動の習慣の形成のほうが重要性が大きいと考えられる。

性別にみると、女子で、ペットや動植物の世話、日記をつける、地域の図書館で本を借りてくる、美術館や博物館に行く、本を読みながらわからない言葉を辞書で引くが多く、一方男子で、歴史小説や歴史の本を読むが多い。概して女子の積極的行動が目につく。

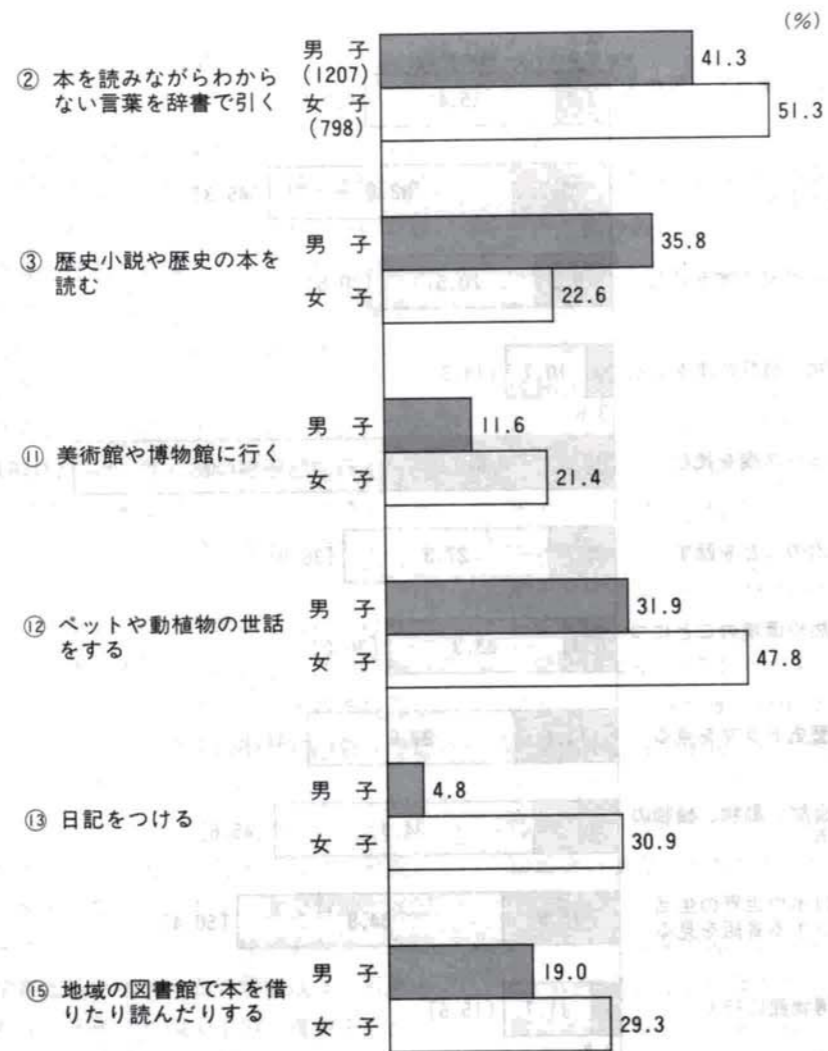
図1-12 学習関連行動



注1) []内の数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) サンプル数は2005人。

図1-13 性別にみた学習関連行動



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) 図中の番号は図1-12のものを用いた。
 注3) ()内はサンプル数。

2. 精神的・肉体的疲労と学習行動

【「だるい」85%、「あきっぽい」84%、「あくびがでる」83%、「目が疲れやすい」75%、「朝、なかなか起きられない」74%、「いらいらする」65%。】(図1-14)

Q17 あなたはふだん、自分のからだについて、次のように感じることがありますか。

今回の調査では、学習行動との関わりを想定して、高校生の精神的、肉体的疲労度を探る設問を準備した。彼らが自分自身の状況を語った回答状況をみる限り、精神的、肉体的に疲労した高校生像が見えてくる。

全体としてみると、次のように決して精神的、肉体的に健康とはいえない数値がでてくる。

「だるい」85% (「とてもそう思う」と「すこ

しそう思う」の合計)

「あきっぽい」84%

「あくびがでる」83%

「目が疲れやすい」75%

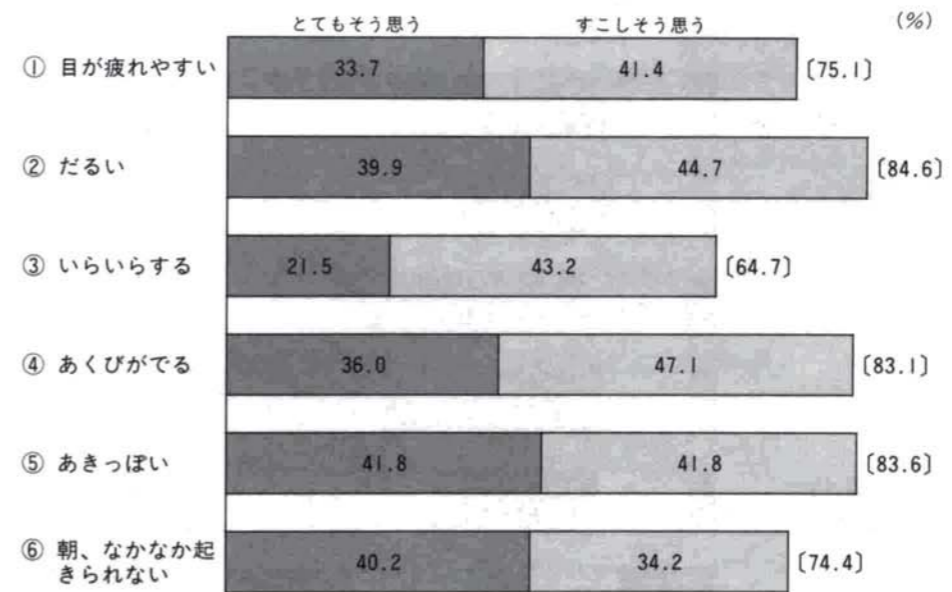
「朝、なかなか起きられない」74%

「いらいらする」65%

これらの結果は、性別、成績の自己評価別、在学する学校の進学状況別など属性別に大きな差異がみられない。属性別に一貫した差異が読み取れない数少ない設問のひとつである。

成績や学校の進学状況によって、学習の量やタイプはかなり大きな差異がみられた。このことを考えあわせると、上記でみたような精神的、肉体的な疲労度は、(断定はできないものの)学習行動との関わりでとらえるよりも、高校生が一般にもっている世代的な生活状況との関連で理解するほうが有効であるように思う。

図1-14 精神的・肉体的疲労



注1) []内の数値は「とてもそう思う」と「すこしそう思う」の合計。
 注2) サンプル数は2005人。